



2020年8月6日

富山県朝日町

スズキ株式会社

株式会社博報堂

富山県朝日町で町内の移動課題解決に向けた MaaS 実証実験を開始

富山県朝日町(町長:笹原 靖直、以下「朝日町」)、スズキ株式会社(本社:静岡県浜松市、代表取締役社長:鈴木 俊宏、以下「スズキ」)、株式会社博報堂(本社:東京都港区、代表取締役社長:水島正幸、以下「博報堂」)は、先に締結した「地域の移動課題解決に向けた連携に関する協定書」に基づき、富山県朝日町にて地域住民の移動サポートに関する MaaS 実証実験を開始します。

本実験は、朝日町の住民の移動課題の解決を目指すとともに、国土交通省の「自家用有償旅客運送」制度に即し、自家用車を活用した MaaS ソリューションの開発、実用化の推進を目的とするもので、朝日町が提供する公共交通サービス「ノッカルあさひまち」として、スズキの軽自動車および博報堂が開発中の自家用車を活用した MaaS システムを使用します。

実証実験期間中、まずスズキの軽自動車を町の職員が運転し地域住民を送迎する形で「ノッカルあさひまち」のサービスを開始し、その後、自家用車を保有する地域住民からドライバーを募り、同じ町内の住民を送迎する形へサービスを移行していきます。本取り組みは、朝日町の交通事業者である有限会社黒東自動車商会および株式会社スズキ自販富山、株式会社ヴァル研究所の協力のもと、2020年8月から2021年3月まで実施予定です。当初は無償にて開始し、のちに有償サービスへの移行を計画しています。

朝日町は、高齢に伴う運転免許返納者の増加などにより、住民の公共交通サービスへの需要が高まる中、バス・タクシーなどの公共交通に加え、将来にわたり持続可能な規模で行う住民同士の送迎という新たな移動手段を提供することで、地域コミュニティの再興も図ります。

また将来的には、顕在化し始めている、地方への移住・多拠点居住の動きの中で、町に居住する上での移動課題を解決し、関係人口の創出に繋がるような公共交通サービスを目指しています。

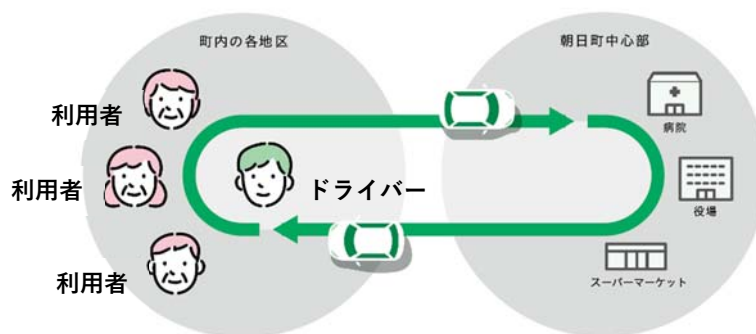
スズキは、この取り組みへの参画を通し、高齢に伴う運転免許返納者の増加や、人口の減少による公共交通の衰退など、地方の皆さまの移動における課題に向き合い、持続可能な形での課題解決に関わることで、地域や産業の振興および地方の皆さまとの共存を図っていきたくと考えています。

博報堂は、日本版 MaaS のあるべき姿のひとつとして、地域の自治体や住民の皆様と共に考える「地域交通全体の次世代化」が、地域の移動課題解決に不可欠と考えており、本取り組みにおいても、地域の生活者や交通事業者の皆様とともに、交通課題解決に繋がるサービスやシステムの開発を推進して参ります。現在開発中のシステムは、朝日町が認定した町内各地域のドライバーと、ユーザーをマッチングすることで、認定ドライバーが自家用車を活用して、同地域のユーザーを目的地まで送迎する MaaS システムです。

<ノッカルあさひまちサービス概要>

各地区と中心街を行き来するドライバーの車に、移動したい乗客が「乗っかる」仕組みです。ドライバーは助け合いの精神のもと、自分の予定に合わせて、近所の利用者を自分の車に乗せて、目的地まで送迎します。

利用者は、ドライバーの予定を見て、事前に予約し、ドライバーの車で目的地まで移動します。



<各者の役割>

朝日町 : 公共交通サービス「ノッカルあさひまち」の運行管理、
ドライバー及び利用者の募集及び管理

スズキ : サービス設計、実証実験中の一部車両の貸与および維持管理

博報堂 : サービス設計、システム設計、デザイン制作

<本実証実験の協力>

有限会社黒東自動車商会:公共交通サービス「ノッカルあさひまち」の運行管理

株式会社スズキ自販富山 :実証実験中の一部車両の貸与および維持管理

株式会社ヴァル研究所 :システム設計